

氏名： 森山 新 (MORIYAMA Shin)  
 所属： 人間文化創成科学研究科文化科学系  
 職名： 准教授  
 学位： 文学博士 (日本語教育学) / 教育学修士 (日本語教育学)  
 専門分野： 応用言語学 (日本語教育学、第二言語習得、認知言語学)  
 URL： <http://jsl.li.ocha.ac.jp/morishin1003/>  
 E-mail： moriyama.shin@ocha.ac.jp

◆研究キーワード / Keywords

応用言語学 / 認知言語学 / 第二言語習得 / 日本語教育  
 Applied Linguistics / Cognitive Linguistics / Second Language Acquisition / Japanese Language Education

◆主要業績

総数 (6) 件

- ・『認知言語学から見た日本語格助詞の意味構造と習得：日本語教育にいかすために』(ひつじ書房、単著)
- ・『多様化する言語習得環境とこれからの日本語教育』(スリーエーネットワーク、共編著)
- ・「日本語の言語類型論的特徴がモダリティに及ぼす影響—グローバル時代に求められる総合的日本語教育のために—」『研究年報』5:147-154、お茶の水女子大学比較日本学教育研究センター
- ・「格助詞ヲ・ニのカテゴリー構造と韓中日本語学習者のカテゴリー形成」『日本学報』76:11-28、韓国日本学会、共著
- ・「第二言語としての日本語の多義語の習得と日本語教育への応用」『日本認知言語学会論文集』8:595-610、日本認知言語学会、共著

◆研究内容 / Research Pursuits

科研基盤研究 C「認知言語学的観点を生かした日本語教授法・教材開発研究」の成果を『現代日本語教育の理解』、『認知言語学から見た日本語格助詞の意味構造と習得』、『日本語教師のための応用認知言語学』などの著書で公開した。

その他、比較日本学教育研究センターでは引き続き、研究プロジェクト「グローバル時代の総合的日本語教育」を推進した。また学習環境と第二言語習得との関係を研究し、『多様化する言語環境とこれからの日本語教育』として出版された。

I published “Comprehension of the Modern Japanese Education”, “The Semantic Structures and Acquisition of Japanese Case Particles from the Viewpoint of Cognitive Linguistics”, and “Applied Cognitive Linguistics for the Japanese Language Teachers” on the basis of the results of the Scientific Research C “The Research of Teaching Methods and Materials for Japanese Language Education”.

I, furthermore, continued a research on “Holistic Education of Japanese Language in the Global Era” as the research project of the center for comparative Japanese Studies. I also clarified the relation between the learning environment and the second language acquisition, which I later published as “Diversified Language Environments and Japanese Education in the Future”.

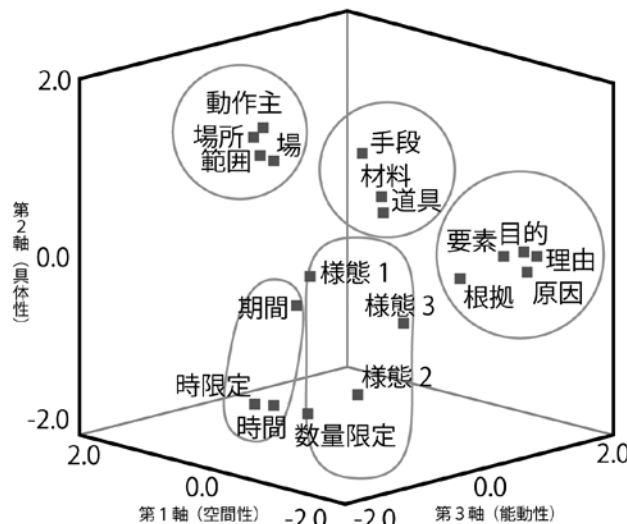


図1 多次元尺度解析による格助詞の意図構造

◆教育内容 / Educational Pursuits

比較日本学教育研究センター長として、国際日本学シンポジウム、韓国、中国、台湾、英国、チェコ、米国、フランスの8大学合同の国際日本学コンソーシアム、公開講演会、国際ジョイントゼミなどのグローバルな教育プログラムを実施した。

またグローバル文化学環の教員として、釜山外国語大学との間でTV会議システムを用いた遠隔共同授業を実施した。

さらに国際教育センター専任教員として、本学の20名の学生と韓国の同徳女子大学校を訪ね、第5回日韓大学生国際交流セミナーを実施した。留学生に対しては、日本語、日本事情において日本人学生との交流型授業を行ったり、韓国外大やヴァッサー大学の学生を対象に行われた日本語研修プログラムをコーディネートした。

また本学大学院生8名と韓国の同徳女子大学を訪ね、日本語教育、日本史の教壇実習とジョイントゼミを行った。

As a director of the Center for Comparative Japanese Studies, I held the international symposium on Japanese studies and the international consortium on Japanese Studies with 8 graduate schools in Korea, China, Taiwan, England, Czech, US, and France. I also conducted joint education programs of graduate schools in the world.

As a member of the faculty of the Global Studies for Inter-Cultural Cooperation I conducted remote joint-classes of Japanese language and culture with Pusan University of Foreign Studies. I, furthermore, held "The 5th International Exchange Seminar for Japanese and Korean Students", visiting Dongduk Women's University in Korea with our 20 students, and also held joint exchange classes of Japanese language and culture for foreign students with Japanese students. I conducted the summer school of Japanese language and culture for Korean University of Foreign Studies, and also for Vassar College in the US.

I visited Dongduk Women's University in Korea with our 8 graduate students and conducted the overseas teacher training of Japanese language and history, and held joint education program.

◆研究計画

これまで7年間にわたり継続してきた認知言語学的観点からの第二言語習得研究をもとに以下のように日本語教育への応用を試みる。

- 1) 認知日本語文法 (Cognitive Japanese Grammar) の構築
- 2) 文法書や教材、学習辞書などの開発
- 3) 文化を取り入れた総合的日本語教育の構築
- 4) 遠隔教材を用いた海外日本語教育支援

◆メッセージ

グローバル時代に私たちの言語（日本語）を再考し、それがどのような特徴を持っていて、日本人の子供や外国人学習者にどのように学ばれており、どのように教えるのがよいか、といったことに関心のある方はぜひ一度以下をご覧ください。

<http://jsl.li.ocha.ac.jp/morishin1003/>

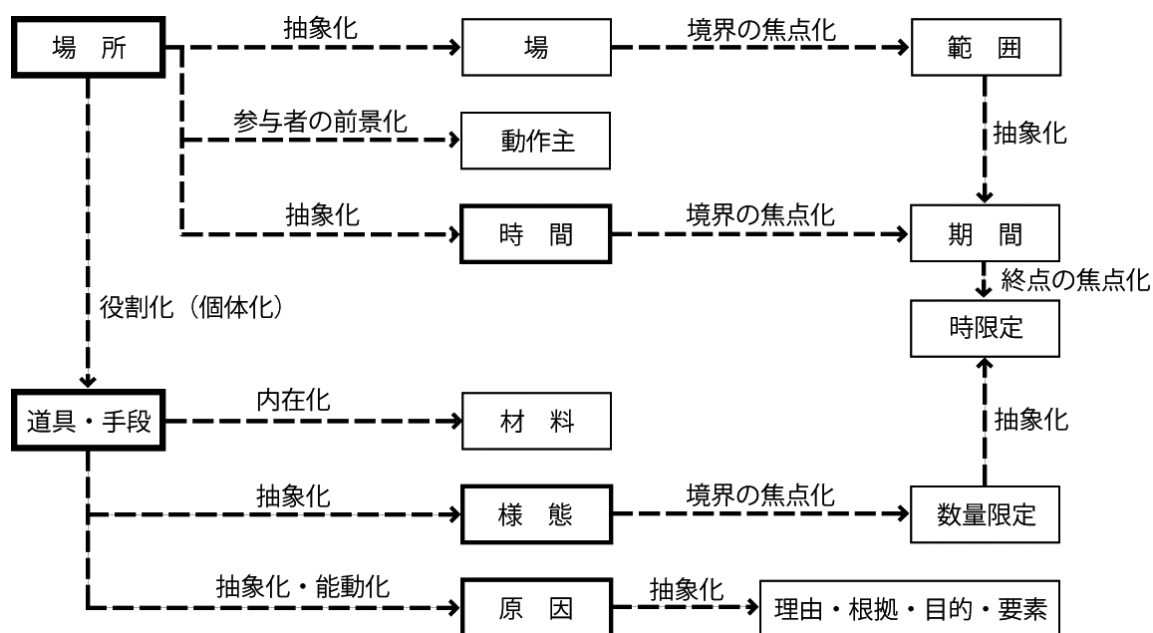


図2 格助詞デの意味構造